



もうすぐハロウィーン。あなたはなにか特別なことをしますか？
近所のねこたちにご馳走をあげたらいかが？

Popoki's Hot News!



ポーポキと一緒に健康と平和を考えるイベント！

11月10日にポーポキと一緒に健康と平和を考えてみませんか？
自分の身体の音は？においは？「健康」の色は？

毎日楽しく過ごすカギのひとつは、自らの健康に気付くことです。
そして、それは平和にもつながる。詳しく、本「ポーポキ通信」の9ページへ！

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのてつりにゃんから、届いた平和：

「だれか好きな人や大切な人といるとき、平和を感じる。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



お勉強の秋！

ポーポキは、神戸大学主催のシンポ「神戸から東北へ」でポスター(11月3日)、上海(11月9日)、津市の国際学会(11月26日)でポーポキ友情物語についての研究報告をする予定。詳しくは、「ごいっしょにどうぞ」をご参照！

いつもご協力、ありがとうございます！



「ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」
(エピック 2012)はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

＊神戸 YMCA でも販売していますよ！

本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。

私とポーポキは、9月にアフリカのウガンダ共和国に行ってきました！！

そもそも皆さん、ウガンダはどこにあるかご存知ですか？ウガンダは、東アフリカに位置する、ケニアのお隣の国です。そこでは、2006年まで反政府軍と政府軍による紛争が繰り広げられていました。今回、私たちはその紛争地域の中心部であった、北部のグルというところに行ってきました。そこで、反政府軍に誘拐されて、兵士として使用された元子ども兵たちと、周りに暮らす地域住民によって、歓迎パーティーが行われていました。そこには、実際に殺人行為に加担させられた元子ども兵、村を襲撃された地域住民がいて、それぞれ違った感情を抱いていますが、紛争後両者の和解を促進するために、こういったイベントを皆で一緒に行うということがなされています。



簡単に活動の説明をして、実際に元子ども兵たち、施設で教える先生、地域住民の子ども達が次々と真っ白のキャンバス(布)にそれぞれの思いを描いてくれました。

何人かの子どもが言いました、「僕の友達は、雨なんだよ」。「どうして？」と聞くと、「だって雨が降ると、僕たちは水が飲めるから」「植物(作物)が育つから」。正直、日本人である私は、考えたことがなかった発想でした。そのことを施設の先生に話すと、「子ども達は、すごく周りの環境に影響を受けて、暮らしてるから当たり前なんだよ」と教

えてくれました。確かに、雨やヘリコプター(よく施設周辺上空で、飛行訓練がされています)、学校で先生が教えている様子を描く子が多かったです。

施設で洋裁の技術を学んでいる元子ども兵の一人は、僕の友達はミシンなんだと、嬉しそうに描いてくれたり、他にも猫と紫色が好きな元子ども兵は、猫同士が互いに食べ物を与える様子を紫色のペンで描いてくれました。

また、施設で元子ども兵たちに木工大工の技術を教えている先生は、「僕にとっての平和は、生徒達(元子ども兵のこと)に技術を教えること。だってそれは、生徒が知識を得る助けになるし、生徒の自立、そして平和につながるから。」と教えてくれました。

たくさん子ども達を書いてくれたおかげで、布は素敵な絵でいっぱいになりました。



今回すごく感じたのは、ウガンダの人たちは、すごく素直に感情表現をしていること。前回のポーポキ通信で、私が考える平和っていうのは「自分の置かれている環境に感謝できること」だと書きましたが、確かに新しいものを求めることはあっても、必ず今の環境に感謝(元子ども兵だと、サポートを受けている環境など)していると感じました。そういった思いが、今後特にウガンダ北部で共有されていってほしいなと願っています。





ウガンダで出会った人達、そしてポーポキ、ありがとう！！

ケニア・スタディ・ツアーに参加して

勝呂 新

この夏、私はケニアのスタディツアーに参加しました。ケニアに行くのは初めてでしたが、永松真紀さんというケニア在住約20年の女性がガイドをしてくださり、ケニアの今を少しばかり知ることが出来たと思いますので、訪問した場所ごとにご報告します。

■まず、ケニアの首都ナイロビの「キベラ」という世界最大級のスラムにある「マゴソ・スクール」を訪問しました。キベラの入り口からは銃を持った警察官の護衛が3人もつきましたが、真紀さんからは「トラブルに繋がるので、カメラ撮影は原則禁止」と念押しされました。キベラに入ると、でこぼこで車も入れない細い道が続きましたが、両脇には小さな商店や八百屋、床屋といったお店が建ち並び、人々が普通に生活している感じが感じられました。また土曜日で仕事や学校がお休みだったため、小さな通りには大勢の人が行き交っていてとても賑やかでした。そんな街の中をずんずんと奥に進んで、細い露地を入ったところに「マゴソ・スクール」がありました。この学校は真紀さんの友人である早川千晶さんがキベラの住民と立ち上げた学校で、現在300人以上の子ども達が学んでいます。学校がお休みだったにもかかわらず、多くの子ども達が集まっていて、カウンセラーとしてボランティアに来ているケニアの大学生と私たちに、各民族に伝わる歌や踊りを見せてくれました。子ども達の全身から発せられる歌と踊り



の上手さと迫力には圧倒されました。スクールの選抜チームは毎年合唱コンクールの全国大会で上位入賞を果たしているそうで、今年も優勝を目指して日々練習に励んでいるそうです。歌の活動に力を入れている理由は、教育的効果はもちろん、子ども達のストレス解消にもなるからですが、一番の理由は「子ども達に時間を与えないため」とのことでした。子ども達は家に早く帰ると時間をもてあまし、トラブルに巻き込まれる可能性が高くなるため、課外活動を行って学校に留めておく



必要があるということです。「特に女の子に時間を与えてはいけない」と案内してくれたリリアンさんが強調されていたのが印象的でした。また、休日にも関わらず多くの子ども達が集まってくれた一番の理由は「特別に給食が出るから」とのことでした。貧しさから毎日の食事が給食のみの子どもも多いらしく、子ども達との時間はとても楽しかったのですが、お腹が空いているのに、カー杯歌っていたのかと思うと切ない気持ちになります。キベラは行政上の地図にない街ですが、政府はこのスラムを解消する計画で、近所には新しい集合住宅が建築されて

いました。しかし、その新しい住宅の家賃を払えるような住民はほぼいないそうで、行政が本当にすべきことは何なのかについて考えさせられました。

■次に「ナクル湖国立公園」を訪れました。ここは昔、湖一面がフラミンゴで埋め尽くされることで有名だったナクル湖周辺の動物保護区です。湖の周りには多くの動物たちが集っていて、ヒビにシマウマ、インパラ、バッファロー、キリン、ジャッカルにサイの親子、たくさんのポーポキのお友達の姿を見ることができて、大興奮しました。ナクル湖は、近年、水質悪化でフラミンゴの数が激減していた上に、今年は雨が多くて湖の塩分が薄れたため、フラミンゴの餌となる藻の成長が悪く、その姿を見ることすら困難とのことでしたが、幸いにも小さな群を見ることが出来ました。湖の汚染が進んだ理由の一つは、日本からの援助で「上水道」を整備したものの、「下水道」の整備をしなかったためと聞き、とても残念に思うとともに自然環境の保護と開発援助の在り方について私なりに考えさせられました。



■次にでこぼこ道を車で何時間も走ってタンザニアとの国境に接する「マサイ・マラ国立保護区」を訪れました。ちなみにタンザニア側は野生動物の豊富さで有名な「セレンゲティ国立公園」で、当たり前ですが、動物たちは広大なサバンナを国境に関係なく行き来しています。この辺りの国境は一直線で、国境とは「国家」という人が作り出した仕組みの下、極めて恣意的に引かれたものに

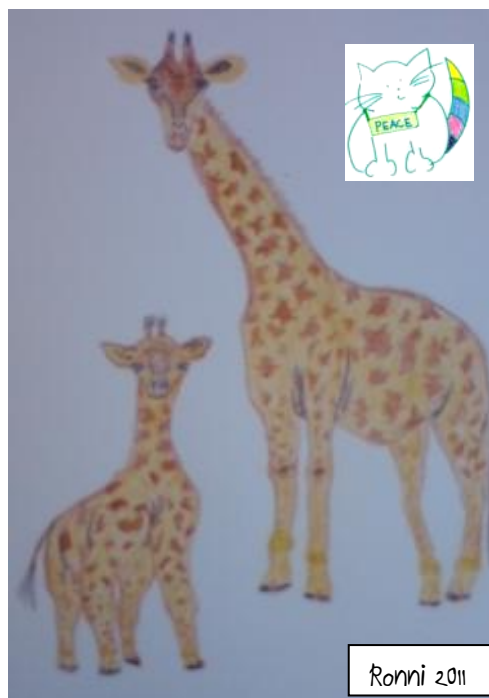
過ぎないのだということを改めて感じさせられました。ここでも多くのポーポキのお友達、シマウマやヌーの群、キリンやサイ、ケニア山の語源となったというダチョウ、迫力あるゾウの群や可愛らしい子ゾウ、イボイノシシの親子、サファリパークのように道を歩いてきたお疲れ顔のメスライオンにお目にかかることができ、とても楽しい時間を過ごせました。

■次に、ガイドの真紀さんが10年ほど前に結婚したマサイ族のジャクソンさんが住んでいる「マサイの村」を訪ねました。この村はマサイ・マラ国立保護区につらなる山の上にあり、村人達はマサイの伝統的な生活を続けていて牧畜で生計を立てています。私たちは電気も水道もない村のそばに張ったテントに寝泊まりしてマサイの暮らしを見学し、村の小学校に訪問させて貰いました。この小学校は、牧畜ができる土地が狭まっているという現実に関心を感じた村人達が、将来子ども達が牧畜で生計を立てられなくなっても他の仕事につけるようにと数年前に建設したのだそうです。「マサイ」と言えば有名なのが「戦士」で、真紀さんの旦那さんのジャクソンさんはライオンを2頭も狩ったことのある正真正銘の「マサイの戦士」です。ジャクソンさんはマサイの文化を大変誇りに思い、こよなく愛していて、その素晴らしい文化を多くの人に知って貰いたいと思っているそうですが、現在「ライオン狩り」は動物保護の観点から禁止され、若者たちは学校に通っていて「戦士」としての修行ができないことから、いわゆる真の「戦士」は減る一方らしく、真紀さんは大変残念がっていました。遙か昔から続いてきたマサイの伝統文化は、まさしく今、変革期を迎えているようです。



■今回のツアーでは、ケニアの人々は生まれた環境や暮らす場所によって全く異なった生活を送っているということを強く感じ、いろいろと考えさせられました。真紀さんや早川さんのお話によると、ケニアでの暮らしは、日本では想像もつかない理不尽なことがいろいろとあって、ケニアの政治情勢やキベラの子ども達を取り巻く環境はこの先も決して楽観視することはできないようです。しかし彼女たちはそんなケニアの現実と真っ向から向き合い、時には怒ったり悩んだりしながら、自らの理想に向かって努力を続けていて、非常に頼もしく感じました。「ケニア」や「マゴソ・スクール」「マサイ族」に興味を持った方は、真紀さんや早川さんの奮闘ぶりが書かれた下記の本をぜひ読んでみて下さい。関連HPもありますのでチェックしてみてください。

- *「私の夫はマサイ戦士」 永松真紀 著 新潮社
- *「アフリカ日和」 早川千晶 著 旅行人
- *「Maisha ya raha 基金」 <http://maisha-raha.com/>



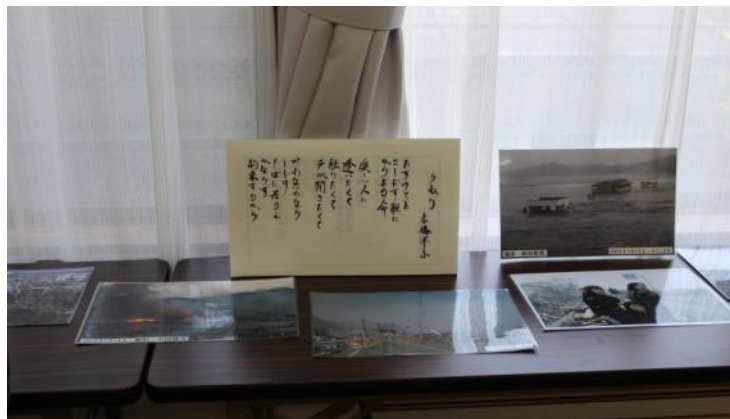
～震災から1年半 In 大槌町、陸前高田へ～

西山 侑佑

2012年10月12日～15日の4日間、今回はポーポキのお友達のロニーにゃん、さとにゃん、アスタにゃん、スザンカにゃん、あきらにゃん、たろうにゃん、そして僕、ゆうすけにゃんの7人でポーポキ・ピース・プロジェクトの一員として岩手県、大槌町・陸前高田市に行きました。

10/12日 21:45分に秋葉原からバスで出発して、大槌町に着いたのは朝7時ごろ。朝も早かったのにポーポキのお友達の元持幸子さんが迎えに来てくださり、さらに、元持さんのお家でご飯もごちそうになりました。そこで、元持さんに震災についてのお話をポーポキのお友達のアスタにゃんが伺いました。

アスタにゃんがお話を聞いている間に、ほかのポーポキのお友達は大槌町出身の写真家の伊藤陽子さんと詩人の東梅洋子さんのお二方にお会いしました。伊藤さんは小さいころから写真を撮るのが大好きで彼女の生活の一部になっているそうです。東梅洋子さんは、もともと詩を書くのは好きで現在詩人として活躍されている方です。黒い大きな壁として押し寄せてきて何もかもを一瞬で奪い、すべてを灰色に変えてしまった津波に破壊されたみんなの大切な思い出が詰まっていた街のあった場所を途中からアスタにゃんも合流してみんなで一緒に案内していただきました。



(右上：案内してくださっている伊藤さん) (右下：お話しくださっている東梅さん)
(左下：東梅さんの詩)



お二人に思い出の詰まった場所を案内していただいた後、大槌北小学校が元々あった場所のとなりにある仮設商店街にみんなで一緒に行きました。その商店街の中にある、前にポーポキとお友達がお世話になって、今やすっかりポーポキのお友達になった小林さんが経営しているらっしゃるシフォンという名前のカフェに行きました。そこで、神戸のパンにも負けないおいしいパンやパンプキンスープをごちそうになりました。それから、小林さんが震災についてお話を聞かせてくれました。

お次は～新しく建てた植田先生の診療所へ行き、波が来た時の映像を見せていただきました。

植田先生は、津波が来たとき大槌町市街地の真ん中あたりにある診療所におられました。先生は数人の看護師さんたちと一緒に屋上に避難していました。屋上から津波を見てみるとまるで自分たちが海のどまん中にいるような感覚になったそうです。それでも植田先生は“絶対生きてやる”と考えていたそうなので、その生命力に感激です。

そのあと、同じく大槌町のお医者さんの道又衛先生の診療所にお伺いしました。道又先生は震災後に街を明るくしたいという思いも込めて、新しくピンク色の診療所を立て直しました。

道又先生はご自宅で津波に遭遇されました。そのとき、天井と 10 cm くらいのところまで津波で持ち上げられたそうです。しかし、自分が死ぬとは思わなかったと笑っておっしゃっていました。道又先生の前向きさ・明るさにも感激です。



（植田先生の診療所にて）



（道又先生とかわいいピンクの診療所）

それから～バスで釜石市へ。バス停から歩いて 5 分くらいのところにある高金旅館というところに泊まりました。そこで、いったん一休み…

次の日の朝、6:30 頃に釜石市からバスで出発して陸前高田市の和野会館に 10 時ころに着きました。そこではお茶っ子の会に参加させていただきました。お茶っ子の会は、みんなで集まってお茶しようという趣旨で始まったそうです。震災のあとに陸前高田市の和野会館周辺にもいくつかの仮設住宅ができてからは、その仮設住宅に住む人たちも誘って、みんなで仲良くなれるようにという願いも込めて活動されているそうです。

和野会館で出会った人々はみなさん本当に元気で、なにより笑顔が素敵でした。たくさんの人々とお話したり、ともに笑ったり、みなさんとはすっかりお友達になれたと思います。



（お茶っ子の会でのポーポキ友情物語）



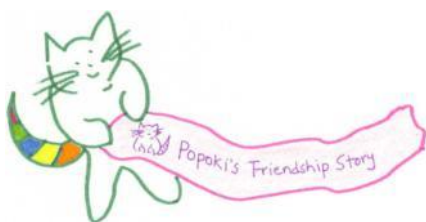
（お茶っ子の会でみんなで巻き寿司）

楽しい時間というのは、あっという間に過ぎてしまいます。この日の夜バスに乗って池袋へ～～～まだ帰りたくな～～い。



今回、被災地へ行くことができて、まず感じたことは“何もない…”目で見ただけでは一面緑が広がっている。この光景を見た人が「草原だ」と言ったら、写真家の伊藤さんは「違うよ!! ここには私たちの町があったんだ…」とおっしゃっていました。目の前に広がる光景を見て、自然の大きさや、厳しさを感じました。自然はすべてを無に自然に還そうとするのかな、津波

によって人々にとって大切なものを奪い流して、何事もなかったかのように生き生きと草花が生い茂る…しかし、その草花の生命力が人々に元気や勇気を与えたりもする。不思議な関係…私たち人間はどのように自然と共存をしていけばいいのか、改めて考えさせられるそんな4日間でした。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 53

今月のポガのテーマはバランス！強くなる、そして癒されるといいですね。



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
 2. さて、バランスをとるためにしっぽも使って、片足で立ってみましょう。右・左、どちらの足に立つと楽にできますか？
 3. 次に、片足で立ちながら、反対の足を横へ開いたり閉じたりしてみましょう！これにも右・左の差はあるかもしれませんね。
 4. では、今度は片足で立ちながら反対の足を前とうしろに動かしてみましょう。
 5. できた？では、できたポーズをどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。



一緒にいかが？

次回のポー会 11月20日(火) 神戸YMCA 19:00~20:50 306

次々回のポー会 12月18日(火) 神戸YMCA (ポー年会をかねて)

11.9 ポーポキ in 上海！「リスク・マネジメント」についてのシンポジウム。神戸大学大
キャンパス・アジア・プログラム主催。

11.10 「平和と健康」 兵庫医療大学(神戸市中央区ポートアイランド)地域連携室 13:30
会場・14:00~16:00. ポー会スタッフ集合:13:00. 参加無料。

11.24-28 ポーポキ友情物語 at IPRA (International Peace Research Association)大会。
三重県津市。(ポーポキは25日の午後、芸術・人権・平和部会)

12月 ポーポキのミニ・映画祭 (予定)

2013.2.23-24 ポーポキ in 東北(予定)

2013.3. 21 ポーポキ at 国際ロータリー (予定)



ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- R. Alexander. "Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War." *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29 面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22 面)
- K. Wada. "Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?" *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. "The Art of Healing"(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて～人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介: 『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介していただきました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面
- 中国新聞「核廃絶への視点」 2008. 7. 27 (核抑止論について・・・。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに・・・。





私にとってのポーポキ

Aastha Ranabhat

Translation: Kasumi Nishida

ポーポキは、A)ある時は公の場での開かれた対話やワークショップを通し、B)またある時はボランティアやアクティビズムを通して、平和にとって大変な重要性を持つ「命の様々な側面」が問われ、提案され、思考されるフォーラムです。ポーポキは今までに、「健康と平和」、「災害と平和」、「アートと平和」、「環境と平和」などのトピックやテーマを扱ってきました。今挙げたようなテーマは、他のピース・プロジェクトやボランティアグループにおいても取り組まれているかもしれませんが、でも、ポーポキのユニークさはその方法論にあります。ポーポキのプロジェクトは、参加者たちに非一言語的な方法で平和を理解し、表現し、平和に関連する知識を積み上げるよう働きかけます(これはしばしば簡単に無視されている手法です)。例えば、プロジェクトでは平和を読み解くツールとして、参加者たちに、感覚処理(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚のような)に注目することを求めます。私は最初、この手法をよく理解できませんでした。ポーポキに出会って間もない頃は、平和や友情や命の色・におい・味・音について答えることが、どのように平和構築や平和に関する知識を生み出すことに役立つのか、分からなかった。しかし、ポーポキの方法を試し、またその結果を見ていくなかで、私はこの手法が効果的な結果を生み出すと確信するようになりました。私の話を明確にするために、最近あった例について語りたいと思います。

先月、私の両親は神戸大学での私の修了式に参加するために、日本を訪れました。この旅行は私の両親にとって、特に、ほんの数日前に母(私の祖母)を亡くしたばかりのお母さんにとって、簡単なものではありませんでした。お母さんは、人生の重要なハードルを越えた私のことを喜ぶと同時に、彼女にとって最も大切な人(祖母)を亡くした悲しみのなかにいました。日本での滞在中、お母さんは自分の感情を話そうとしなかったけれど、ただ一度だけそうしたのは、YMCA 神戸でポー会に参加した後のことでした。お母さんはポー会で、他の参加者に混ざって、体を使って「怒り」を表現するエクササイズに参加することになりました。私は、今置かれている状況に加えて、とてもシャイなお母さんはきっとできないだろうなという印象を持っていたのですが…驚いたことに私の両親は、このエクササイズを素晴らしくやり遂げたのです；しかも楽しそうに！二人は、どうして怒りは「悪いこと」なのか意見を述べてくれ、私は二人への誇りと感動でいっぱいでした。その夜、YMCAから家に帰る道で、お母さんは、祖母を亡くしたことや、祖母の死と私の修了式が重なってしまったことに怒っているんじゃない、と教えてくれました。「私はただ、混乱しているの。この感情を、どうやって表現したらいいのかわからないのよ！」と。これは、私とお母さんが祖母に関して交わした、唯一の会話です。よって私は、言葉や他の方法では表現できない感情を表すのに、ポーポキの手法はとても効果的だと信じているのです。





ポーポキの手法は、お話が得意ではない人・特に自分を表現するために感情を抑えることを学んできた人にとっても優れた媒体です。だから、私はこの方法を教えてくれたポーポキには本当に感謝をしています。ポーポキの手法を学ぶことにはやりがいがあり、ポーポキ・ピース・プロジェクトの一員となって以来、私の思考はより深く、思いやりそのものになったと感じています。私のように、世界を理解し、世界の人々のための向上の一助になりたい、と考えている学生にとって、ポーポキの手法は必ず得るべきスキルでしょう。

ポーポキ、とても価値あるレッスンをありがとう。より平和でより良い世界への想像力を私と共有している、それぞれに特別な人格やアイデンティティを持った世界中の人々に、繋がる機会をくれてありがとう。私たちの差異、偏見、多様な民族性、文化、世代間のギャップにも関わらず、「平和は大切なものだ」という共通認識とそれを求めていく情熱は必ず存在する」と私に信じさせてくれてありがとう😊

私はあなたのことを誇りに思うよ、ポーポキ。そして、いつか私も、あなたの誇りになれるように！！



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災

をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行します。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。

